

「支え合う地域づくりのために」

# つながる



# 広がる

#1

「顔“の見える関係づくりが大切なんです。」

広陵町民生委員・児童委員協議会

会長 藤山 久仁子さん



民生委員・児童委員は、新生児のいるお宅を訪問して子育て相談に応じたり、児童の登下校時や地域の高齢者の見守り活動など、赤ちゃんから高齢者まで、幅広い年代の人と繋がる活動をしています。どんな思いで活動されているのでしょうか。

「私たちの役割は、地域の中で困り事を抱えている人がいれば相談のり、当事者と一緒の問題解決の糸口を見つけるための協力をすることです。その役割をしっかりと果たせるように、普段から積極的に地域の人に寄り添うようにしています。自分の地域にどんな人が暮らしているのかを知り、地域の人には『この人が民生委員なんだ』と知ってもらおう、そうした『顔』の見える関係を築いておくことが、いざという時、とても役に立っていますよ。」

近年の社会構造の複雑化に伴い、人も相談内容も多様化しています。

「民生委員は、住民と行政とのパイプ役だと言われています。相談を受けて、的確に行政の担当窓口につなぐために、福祉

制度に関する勉強は欠かせません。また、表面化しにくい問題に気付くためには、行政だけではなく、大字・自治会など他団体との連携の充実や情報の共有が必要だと感じています。

そして、地域福祉の原点は、あいさつや声かけなどのコミュニケーションです。地域の中で『最近あの人を見ないな』『様子がおかしいな』という些細な気付きが、大きな問題に発展するのを防ぐことがあります。

まだまだ民生委員制度をご存じない人もいますし、支援しようとしても拒まれる人もいます。そんな人との日ごろの何気ないあいさつが世間話に変わり、心の重い扉が少し開き、自身の悩み事がつい口から出るようになる、一歩踏み込んだ信頼関係が築けようになる。そんな時は本当に嬉しくて。他の委員とも、普段の地道な活動が大切だねと話しているんですよ。」



▲高齢者の家に給食を配食する民生委員・児童委員

## フォトニュース

### 4/17 広陵中学校にテント寄贈

南 都銀行私募債発行を利用して、今回広陵中学校に、広陵化学株式会社より備品（テント）を寄贈いただきました。これから暑くなる季節。生徒の部活動などに役立ちますと校長先生はおっしゃっていました。地域の学校を支援していただくことに感謝して、大切にさせていただきます。

